

第4学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「場面をくらべて読み、心にのこったことを伝え合おう」 教材名「一つの花」

2 単元の目標

様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（〔知識及び技能〕(1)オ）

登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（C(1)エ）

人物の気持ちと情景を、場面の隔たりや移り変わりに結び付けて読む学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（C(1)エ）	①人物の気持ちと情景を、場面の隔たりや移り変わりに結び付けて読む学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

人物の気持ちと情景を、場面の隔たりや移り変わりに結び付けて読む。この教材では、場面・情景・想像した気持ちの対応表を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

時代背景の資料は必要な事実に絞り、人物の気持ちの根拠は本文に戻す。想定する難しさは、戦争への一般的な感想だけで人物の言動を読まない。評価では、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像しているかを、場面・情景・想像した気持ちの対応表と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全7時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。単元の終わりに残す記録を確認、学習の見通しをもつ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～3	○場面ごとの人物の行動と情景の語を選び、共通点と変わった点を整理する。必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確認める活動）
第3次	4～6 （本時）	○場面ごとの人物の行動と情景の語を選び、共通点と変わった点を整理する。心に残る場面の理由を、その前後の叙述に結び付けて説明する。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	7	○選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確認して聞く。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導 (4/7)

(1) 本時の目標

登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(C(1)工)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。 ○「前の場面と後の場面の情景を比べると、人物の思いをどう考えますか」 【めあて】人物の気持ちと情景を、場面の隔たりや移り変わりに結び付けて読む。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ物でも場面が変わると感じ方が違う。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「前の場面と後の場面の情景を比べると、人物の思いをどう考えますか」 場面ごとの人物の行動と情景の語を選び、共通点と変わった点を整理する。心に残る場面の理由を、その前後の叙述に結び付けて説明する。 選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ物でも場面が変わると感じ方が違う。 ・直接書かれていない気持ちは行動から考えた。	時代背景の資料は必要な事実に絞り、人物の気持ちの根拠は本文に戻す。 想定する難しさ：戦争への一般的な感想だけで人物の言動を読まない。 評価では、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像しているかを、場面・情景・想像した気持ちの対応表と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 場面・情景・想像した気持ちの対応表を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・直接書かれていない気持ちは行動から考えた。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「前の場面と後の場面の情景を比べると、人物の思いをどう考えますか」。中央は、場面・情景・想像した気持ちの対応表に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

